

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3143313号
(U3143313)

(45) 発行日 平成20年7月17日(2008.7.17)

(24) 登録日 平成20年6月25日(2008.6.25)

(51) Int.Cl. F 1
B 6 2 H 3/02 (2006.01) B 6 2 H 3/02
E 0 4 H 6/18 (2006.01) E 0 4 H 6/18 6 1 3 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願2008-2898 (U2008-2898)
 (22) 出願日 平成20年5月7日(2008.5.7)

(73) 実用新案権者 591052387
 扶桑レクセル株式会社
 東京都新宿区西新宿1丁目23番7号
 (74) 代理人 100060690
 弁理士 瀧野 秀雄
 (74) 代理人 100108017
 弁理士 松村 貞男
 (74) 代理人 100134832
 弁理士 瀧野 文雄
 (72) 考案者 兼村 秀雅
 東京都江東区大島7-22-18 扶桑レクセル株式会社内

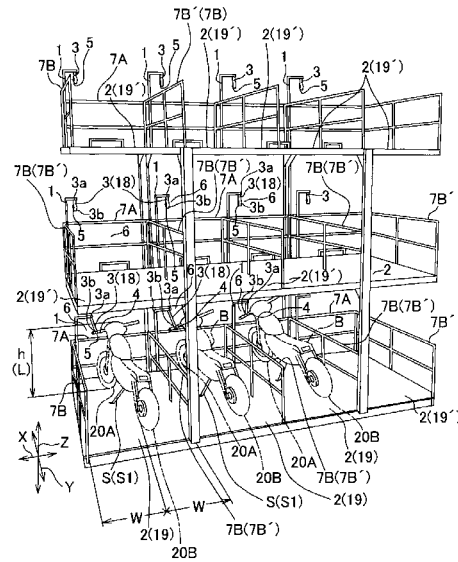
(54) 【考案の名称】 バイク用立体駐車場

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 バイクのハンドルに対する転倒防止装置の位置合わせを迅速かつ確実にに行い、不用意な転倒や地震等の外力に対する転倒を確実に防止するバイク用立体駐車場を提供する。

【解決手段】 バイクBを駐輪するバイク用立体駐車場であって、床面2に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒1と、該支持棒の先端に一端3aが取付けられた紐状部材3と、該紐状部材の他端側の先端部3bに設けられてバイクBの一侧のハンドル4を係止する係止具5と、を有するバイク転倒防止装置6を備えている。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

バイクを駐輪するバイク用立体駐車場であって、
床面に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒と、
該支持棒の先端に一端が取付けられた紐状部材と、
該紐状部材の他端側の先端部に設けられてバイクの一侧のハンドルを係止する係止具と、
を有するバイク転倒防止装置を備えた、
バイク用立体駐車場。

【請求項 2】

前記バイク転倒防止装置には、少なくともバイクの前部、および左右の両側には、前記バイクを囲むように、転倒防止柵が設けられ、左右の両側の前記転倒防止柵相互間の略 1 / 2 の設置幅が、バイクのハンドルの設置高さに相当する長さよりも短く形成されている、ことを特徴とする請求項 1 に記載のバイク用立体駐車場。

10

【請求項 3】

前記係止具が、前後に配する第 1 ピン体、および第 2 ピン体により対向された側壁部を有する基柱部と、前記側壁部間の略中程に回動軸により起倒可能に枢着され、先端側の周面にはカム面が設けられ、前記回動軸に捲回されたねじりばねにより常時、閉方向に附勢されている挟持部材と、により構成され、

一端が固定されるとともに中途が前記第 1 ピン体に止着された前記紐状部材の自由端側は、前記ハンドルに掛け回されて前記カム面と、前記第 2 ピン体との間に挟持可能に挿通される、

20

ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のバイク用立体駐車場。

【請求項 4】

前記紐状部材が、紐、またはベルト、ロープの何れかであることを特徴とする、請求項 1 ~ 3 の何れかに記載のバイク用立体駐車場。

【請求項 5】

前記床面が、パレットであることを特徴とする請求項 1 ~ 4 の何れかに記載のバイク用立体駐車場。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

30

【0001】

本考案はバイク用立体駐車場に関し、バイクのハンドルに対する転倒防止装置の位置合わせを迅速かつ確実にを行い、不用意な転倒や地震等の外力に対する転倒を確実に防止しようとするものである。

【背景技術】

【0002】

従来、バイク、スクーター等の二輪車輛を駐車させるための駐車装置としては、駐輪スペースを無駄がなく駐輪し、また、駐輪させたバイク等の二輪車輛が不用意に転倒したり、地震等による外力により転倒するのを防止するという安全性を考慮して、例えば床面と略平行に横設された案内軌条に沿って移動可能に設けられた台車に支持腕を取り付け、該支持腕の先端部に二輪車両のハンドルのハンドルグリップを捕捉し得るグリップ捕捉部を取り付けて成り、且つ支持腕とグリップ捕捉部との組が全体として台車に対して少なくとも前後方向に傾斜自在であると共に、グリップ捕捉部が支持腕周りに回転自在に設けられているものがあった。この駐車装置は、二輪車輛のハンドルのグリップを捕捉具によって捕捉するのに、駐車させる二輪車輛の前輪車をこの位置まで進入させ、操作グリップを操って、正副の支持杆の前後方向の傾斜角度、この軸回りの回転角度や軸方向への伸縮距離の調節を行いつつ、ハンドルのグリップを捕捉具に挿入して捕捉するものであった（例えば特許文献 1 参照。）。

40

【特許文献 1】実用新案登録第 2 5 1 0 8 9 1 号公報

【考案の開示】

50

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、特許文献1に記載の上記従来の二輪車輛を駐車させるための駐車装置は、ハンドルのグリップを捕捉具によって捕捉するのに、捕捉具に対するハンドルの取付位置での位置合わせは、床面と略平行に横設された案内軌条に沿って台車を移動させたり、正副の支持杆の前後方向の傾斜角度の調整を行ったり、軸回りの回転角度の調整を行ったり、軸方向への伸縮距離の調節等に数操作が必要になり、多くの手間および時間がかかり、取扱い操作が面倒であった。

【0004】

また、特許文献1に記載の上記従来の二輪車輛を駐車させるための駐車装置では、構造が複雑で、部品点数も多く、製作および組付けが容易でなく、製作コストは高価であった。

10

【0005】

本考案は上記従来の欠点を解決し、バイクのハンドルに対する転倒防止装置の位置合わせが迅速かつ確実にでき、また、構造簡単にして製作および組み付けが容易であり、さらには部品点数が少なく、製作コストが安価なバイク用立体駐車場を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案の請求項1に記載の考案は、
バイクを駐輪するバイク用立体駐車場であって、
床面に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒と、
該支持棒の先端に一端が取付けられた紐状部材と、
該紐状部材の他端側の先端部に設けられてバイクの側のハンドルに係止する係止具と、
を有するバイク転倒防止装置を備えた、
ことを特徴とする。

20

【0007】

また、本考案の請求項2に記載の発明は、請求項1において、前記バイク転倒防止装置には、少なくともバイクの前部、および左右の両側には、前記バイクを囲むように、転倒防止柵が設けられ、左右の両側の前記転倒防止柵相互間の略1/2の設置幅が、バイクのハンドルの設置高さに相当する長さよりも短く形成されている、ことを特徴とする。

30

【0008】

また、本考案の請求項3に記載の考案は、請求項1または2において、前記係止具が、前後に配する第1ピン体、および第2ピン体により対向された側壁部を有する基枠部と、前記側壁部間の略中程に回転軸により起倒可能に枢着され、先端側の周面にはカム面が設けられ、前記回転軸に捲回されたねじりばねにより常時、閉方向に付勢されている挟持部材と、により構成され、一端が固定されるとともに中途が前記第1ピン体に止着された前記紐状部材の自由端側は、前記ハンドルに掛け回されて前記カム面と、前記第2ピン体との間に挟持可能に挿通される、ことを特徴とする。

40

【0009】

また、本考案の請求項4に記載の考案は、請求項1～3の何れかにおいて、前記紐状部材が、紐、またはベルト、ロープの何れかであることを特徴とする。

【0010】

また、本考案の請求項5に記載の考案は、請求項1～4の何れかにおいて、前記床面が、パレットであることを特徴とする。

【考案の効果】

【0011】

本考案の請求項1に記載の考案によれば、バイクを駐輪するバイク用立体駐車場であって、床面に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒と、該支持棒の先端に一端が取付けられた紐状部材と、該紐状部材の他端側の先端部に設けられてバイクの側のハンドル

50

を係止する係止具と、を有するバイク転倒防止装置を備えたので、バイクのハンドルを転倒防止装置に固定するには、バイクを立体駐車場の床面にスタンドにて支持し、床面に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒の先端に一端が取付けられた紐状部材を把持し、前後左右上下の何れの方角にも移動されるといふ自由度を發揮する紐状部材の他端側の先端部に設けられている係止具によりバイクの側のハンドルを係止する。こうして、バイクのハンドルに対する転倒防止装置の位置合わせが迅速かつ確実に行え、駐輪させたバイクが不用意に転倒したり、または地震等による外力により転倒するのが防止され、安全性は高くなる。また、構造簡単にして製作および組み付けが容易であり、さらには部品点数が少なく、製作コストが安価になる。

【0012】

また、本考案の請求項2に記載の発明によれば、前記バイク転倒防止装置には、少なくともバイクの前部、および左右の両側には、前記バイクを囲むように、転倒防止柵が設けられ、左右の両側の前記転倒防止柵相互間の略1/2の設置幅が、バイクのハンドルの設置高さに相当する長さよりも短く形成されているので、スタンドにて支持されるバイクは、パレット上で左右両側の転倒防止柵に衝突し、支持されるため、完全に横倒しにはならないから、駐輪させたバイクが不用意に転倒したり、または地震等による外力により転倒するのが防止され、安全性は高い。

【0013】

また、本考案の請求項3に記載の考案によれば、前記係止具が、前後に配する第1ピン体、および第2ピン体により対向された側壁部を有する基枠部と、前記側壁部間の略中程に回動軸により起倒可能に枢着され、先端側の周面にはカム面が設けられ、前記回動軸に捲回されたねじりばねにより常時、閉方向に附勢されているレバー式の挟持部材と、により構成され、一端が固定されるとともに中途が前記第1ピン体に止着された前記紐状部材の自由端側は、前記ハンドルに掛け回されて前記カム面と、前記第2ピン体との間に挟持可能に挿通されるので、前記紐状部材の自由端側を、ハンドルに掛け回してから、その後前記カム面と、前記第2ピン体との間に挿通して引き締め力を加えることにより、常時、ねじりばねの附勢力により閉方向に附勢されている挟持部材の前記カム面と第2ピン体とにより紐状部材は挟持され、係止具にて係止される。また、ねじりばねの附勢力に抗して回動軸を中心にレバー式の挟持部材の基端側を押し込んで先端側を起こすことにより紐状部材に対するカム面の押し付けを解除することができる。こうして、紐状部材の長さを容易かつ確実に長短調節することができ、バイクのハンドルに対する転倒防止装置の位置合わせが迅速かつ確実に行え、駐輪させたバイクが不用意に転倒したり、または地震等による外力により転倒するのが防止され、安全性は高くなる。

【0014】

また、本考案の請求項4に記載によれば、前記紐状部材が、紐、またはベルト、ロープの何れかであるので、バイクのハンドルを転倒防止装置に固定するには、床面に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒の先端に一端が取付けられた紐状部材は、前後左右上下の何れの方角にも移動されるといふ自由度を發揮するため、紐状部材の他端側の先端部に設けられている係止具によりバイクの側のハンドルを容易且つ確実に係止することができる。

【0015】

また、本考案の請求項5に記載の考案によれば、前記床面が、パレットであるので、1つのパレット毎に所望台数のバイクの駐輪が行え、1つのパレットの駐輪が満車になると、満車になったパレットと空きパレットとを交換移動させることにより、バイクを立体駐車ができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0016】

以下図面に従い、本考案を実施するための最良の形態につき詳細を説明する。

【0017】

図1は本考案のバイク用立体駐車場の実施形態を示す斜視図、図2は同じく本実施形態

10

20

30

40

50

を構成するバイク転倒防止装置を示す断面図、図 3 は同じくバイク転倒防止装置を示す正面図、図 4 は同じく図 3 の A - A 断面図、図 5 は同じく本実施形態を構成する係止具の拡大断面図、図 6 は本実施形態を構成するバイク転倒防止装置により、サイドスタンドを用いてバイクを係止した状態の説明的な平面図、図 7 は本実施形態を構成するバイク転倒防止装置により、センタースタンドを用いてバイクを係止した状態の説明的な平面図である。

【 0 0 1 8 】

本実施形態は、バイク B を駐輪するバイク用立体駐車場であって、床面 2 に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒 1 と、該支持棒 1 の先端に一端 3 a が取付けられた紐状部材 3 と、該紐状部材 3 の他端側の先端部 3 b に設けられてバイク B の一側のハンドル 4 を係止する係止具 5 と、を有するバイク転倒防止装置 6 を備えている。

10

【 0 0 1 9 】

前記バイク転倒防止装置 6 は、少なくともバイク B の前部、および左右の両側には、前記バイク B を囲むように、転倒防止柵 7 A, 7 B, 7 B が設けられている。このうち、左右の両側の前記転倒防止柵 7 B, 7 B 相互間の略 1 / 2 の設置幅 W が、バイク B の中立姿勢におけるハンドル 4, 4 の設置高さ h に相当する長さ L よりも短く形成されている。このように、左右の両側の前記転倒防止柵 7 B, 7 B 相互間の略 1 / 2 の設置幅 W が、バイク B の中立姿勢におけるハンドル 4, 4 の設置高さ h に相当する長さ L よりも短く形成したのは、スタンド S にて支持されるバイク B は、床面 2 に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒 1 の先端に一端 3 a が取付けられた紐状部材 3 の他端側の先端部 3 b に設けられた係止具 5 により紐状部材 3 を介して一側のハンドル 4 が係止されて駐輪されているバイク B が、仮に紐状部材 3 が地震等により切断されることがあっても不用意に転倒したり、または地震等による外力により転倒するのを防止し、安全性を高くするためである。

20

【 0 0 2 0 】

前記支持棒 1 を上下前後に移動可能に設けるには、本実施形態では、図 2 乃至図 4 に図示するように、左側に設けた転倒防止柵 7 B の横柵 8, 8 に前後方向 Y に摺動可能に外嵌された案内枠体 9, 9 と、該案内枠体 9 を横柵 8 の所望位置に取り付ける止めボルト 1 0 A、およびナット 1 0 B と、前記案内枠体 9, 9 の外側に縦に固着される支持外筒体 1 1 と、該支持外筒体 1 1 内に上下方向 Z に摺動自在に挿入される前記支持棒 1 と、該支持棒 1 を前記支持外筒体 1 1 の所望位置に取り付けるセットピン 1 2、および該セットピン 1 2 の雄ねじ部 1 2 a に螺合される雌ねじ孔 1 3 a を有する操作ノブ 1 3 とにより形成される。

30

【 0 0 2 1 】

前記係止具 5 が、紐状部材 3 の自由端側が一方のハンドル 4 に掛け回された後に所定位置にて係止されるものであれば如何様なものでも良いが、本実施形態では例えば図 5 に示すように、前記係止具 5 が、前後に配する第 1 ピン体 P 1、および第 2 ピン体 P 2 により対向された側壁部 1 4 A, 1 4 A を有する基枠部 1 4 と、前記側壁部 1 4 A, 1 4 A 間の略中程に回動軸 1 5 により起倒可能に枢着され、先端側の周面にはカム面 1 6 a が設けられ、前記回動軸 1 5 に捲回されたねじりばね 1 7 により常時、閉方向 I に附勢されているレバー式の挟持部材 1 6 と、により構成される。そして、一端 3 a が固定されるとともに中途が前記第 1 ピン体 P 1 に止着された前記紐状部材 3 の自由端側は、前記ハンドル 4 に掛け回されて前記カム 1 6 a 面と、前記第 2 ピン体 P 2 との間に挟持可能に挿通して引き締め力を加えることにより、常時、ねじりばね 1 7 の附勢力により閉方向 I に附勢されている挟持部材 1 6 の前記カム面 1 6 a と第 2 ピン体 P 2 とにより紐状部材 3 は挟持され、係止具 5 にて係止される。また、ねじりばね 1 7 の附勢力に抗して回動軸 1 5 を中心にレバー式の挟持部材 1 6 の基端側を押し込んで先端側を起こすことにより紐状部材 3 に対するカム面 1 6 a の押し付けを解除することができる。こうして、紐状部材 3 の長さを容易かつ確実に長短調節することができる。

40

【 0 0 2 2 】

前記紐状部材 3 が、紐、または図示する本実施形態のようにベルト 1 8、ロープの何れ

50

かである。

【0023】

前記床面2が、パレット19である。このパレット19は、例えば図1に示すように1つのパレット19毎に所望台数、本実施形態では1個のパレット19毎に4台の駐輪が行え、1つのパレット19が満杯になると、満車になったパレット19と、空きパレット19とを交換移動させることにより、バイクBを立体駐車させることができるものである。パレット19の上下方向Z、または前後方向Y、もしくは左右方向Xの移動は、図には示さないが、駆動源としてモータ、スプロケット、チェーン等を用いた公知形式のもと同様であるので、詳細は省略する。

【0024】

前記スタンドSは、バイクBの一側下部、本実施形態ではバイクBの左側下部に、図示しないスプリングばねの附勢力を受けながら起伏自在となるレバーを備えたサイド式のスタンドS1と、またはバイクBのエンジン部分の下部に図示しないスプリングばねの附勢力を受けながら前後方向Yに起伏自在となる左右対向する支持バーを備えたセンター式のスタンドS2との双方が挙げられる。

【0025】

本実施形態のバイク用立体駐車場の実施形態は以上の構成からなり、バイクBのハンドル4を転倒防止装置6に固定するのには、先ず、バイクBを立体駐車場の床面2、本実施形態ではパレット19に前進し、スタンドSにて支持する。

【0026】

これには、例えば図1、図6に示すように、図示しないスプリングばねの附勢力に抗してバイクBの一側下部に設けたサイド式スタンドS1を起こし、前輪20Aを平面視における中立姿勢位置Nよりも角度に傾けた状態にて前輪20Aと、サイド式スタンドS1と、後輪20Bとの3個所にてバイクBを床面2上に図において左側に傾けて支持する。

【0027】

次いで、床面2上に設けられた支持棒1の先端に一端3aが取付けられた紐状部材3を把持し、前後左右上下の何れの方角にも移動されるという自由度を発揮する紐状部材3の他端側の先端部3bに設けられている係止具5によりバイクBの傾けられた一側のハンドル4を係止する。

【0028】

この際、本実施形態では、図2乃至図4に示すように、バイクBに対して左側に設けた転倒防止柵7Bの横柵8,8に前後方向Yに摺動可能に外嵌された案内枠体9,9と、該案内枠体9を横柵8の所望位置に取り付ける止めボルト10A、およびナット10Bと、前記案内枠体9,9の外側に縦に固着される支持外筒体11と、該支持外筒体11内に上下方向Zに摺動自在に挿入される前記支持棒1と、該支持棒1を前記支持外筒体11の所望位置に取り付けるセットピン12、および該セットピン12の雄ねじ部12aに螺合される雌ねじ孔13aを有する操作ノブ13とにより形成されているので、止めボルト10Aをナット10Bから螺退し、緩めることにより、転倒防止柵7Bの横柵8,8に外嵌された案内枠体9,9を前後方向Yに摺動させて支持棒1の取付け位置を調整しておく。また、操作ノブ13を回動操作して雌ねじ孔13aからセットピン12の雄ねじ部12aの螺合を解くことにより、支持外筒体11内に挿入されている支持棒1を上下方向Zに摺動し、取付け高さを調整させておく。

【0029】

そして、支持棒1の先端に一端3aが取付けられた紐状部材3を把持し、この紐状部材3の他端側の先端部3bに設けられている係止具5によりバイクBの傾けられた一側のハンドル4を係止するが、紐状部材3は、本実施形態ではベルト18を1本用いて一側のハンドル4を係止しているため、ベルト18は前後左右上下の何れの方角にも移動されて自由度を発揮するため、係止具5に対してハンドル4を迅速かつ確実に位置合わせが行われ、一側のハンドル4を係止することができる。

【0030】

そして、前記係止具 5 が、紐状部材 3 の自由端側が一方のハンドル 4 に掛け回された後に所定位置にて係止されるものであれば如何様なものでも良いが、本実施形態では例えば図 5 に示すように、前記係止具 5 が、前後に配する第 1 ピン体 P 1、および第 2 ピン体 P 2 により対向された側壁部 1 4 A、1 4 A を有する基枠部 1 4 と、前記側壁部 1 4 A、1 4 A 間の略中程に回動軸 1 5 により起倒可能に枢着され、先端側の周面にはカム面 1 6 a が設けられ、前記回動軸 1 5 に捲回されたねじりばね 1 7 により常時、閉方向イに附勢されているレバー式の挟持部材 1 6 と、により構成されるので、一端 3 a が固定されるとともに中途が前記第 1 ピン体 P 1 に止着された前記紐状部材 3 の自由端側を、前記ハンドル 4 に掛け回し、それから、前記カム 1 6 a 面と、前記第 2 ピン体 P 2 との間に挿通して引き締め力を加えることにより、常時、ねじりばね 1 7 の附勢力により閉方向イに附勢されている挟持部材 1 6 の前記カム面 1 6 a と第 2 ピン体 P 2 とにより紐状部材 3 は挟持され、係止具 5 にて紐状部材 3 は係止される。また、ねじりばね 1 7 の附勢力に抗して回動軸 1 5 を中心にレバー式の挟持部材 1 6 の基端側を押し込んで先端側を起こすことにより紐状部材 3 に対するカム面 1 6 a の押し付けを解除し、紐状部材 3 を緩めることができる。こうして、紐状部材 3 の長さを容易かつ確実に長短調節することができ、一側のハンドル 4 を係止している係止具 5 を一端に設けている紐状部材 3 としてのベルト 1 8 に、余計な弛みをなくし、丁度良い、張りを持たせてバイク B を支持する。

10

【0031】

上記手順、および上記操作を繰り返して行うようにして、図 1 に示すように 1 つのパレット 1 9 毎に所望台数、本実施形態では 1 個のパレット 1 9 毎に 4 台の駐輪を行う。そして、1 つのパレット 1 9 が満杯になると、満車になったパレット 1 9 と、空きパレット 1 9 とを交換移動させることにより、バイク B を立体駐車させる。この際、パレット 1 9 の上下方向 Z、または前後方向 Y、もしくは左右方向 X の移動は、駆動源としてモータ、スプロケット、チェーン等を用いた公知形式のものが使用されるので、詳細な説明は省略する。

20

【0032】

そして、本実施形態では、例えば図 1、図 6 に示すように、図示しないスプリングばねの附勢力に抗してバイク B の一側下部に起こされたサイド式スタンド S 1 と、平面視における中立姿勢位置 N よりも角度 θ に傾けられた前輪 2 0 A と、後輪 2 0 B との 3 個所にて床面としてのパレット 1 9 上に図において左側に傾けられてバイク B は支持されるのと、その一側、図 1、図 6 においては左側のハンドル 4 が、前述のように、係止具 5 により、紐状部材 3 としての 1 本のベルト 1 8 を介して支持棒 1 に支持されているのことから、安定性が増し、上下前後左右の何れの方法から地震等の外力が加わっても紐状部材 3 が上下前後左右の何れの方法から自由度をもって引っ張りが働くことによりバイク B は不用意に転倒されるのが確実に防止される。

30

【0033】

また、少なくともバイク B の前部、および左右の両側には、前記バイク B を囲むように、転倒防止柵 7 A、7 B、7 B が設けられ、左右の両側の前記転倒防止柵 7 B、7 B 相互間の略 1/2 の設置幅 W が、バイク B の中立姿勢におけるハンドル 4、4 の設置高さ h に相当する長さ L よりも短く形成されているので、スタンド S にて支持されるバイク B は、床面 2 に対し上下前後に移動可能に設けられた支持棒 1 の先端に一端 3 a が取付けられた紐状部材 3 としてのベルト 1 8 の他端側の先端部 3 b に設けられた係止具 5 により紐状部材 3 を介して一側のハンドル 4 が係止され、スタンド S にて支持されているバイク B は地震等による外力を受けた場合に、仮にベルト 1 8 が切断されてもバイク B の前部、および左右の両側に、前記バイク B を囲むように、設けた転倒防止柵 7 A、7 B、7 B により転倒するのが防止され、高い安全性を発揮する。

40

【0034】

図示する実施形態では、ピット式の立体駐車場を代表的に示しているが、これは例示であり、立体駐車場としては、これに限らず、自走式、タワー式、地下循環式等の立体駐車場にも本発明は適用することができる。

50

【 0 0 3 5 】

また、図示する実施形態では、少なくともバイク B の前部、および左右の両側に、前記バイク B を囲むように、前記転倒防止柵 7 A , 7 B , 7 B を設けているが、これは代表的な例示であり、例えば図には示さないが、バイク B の後部に扉タイプの転倒防止柵を開閉可能に設けたり、チェーン、ロープ等の転倒防止索を開閉可能に張設することにより、バイク B の後退を規制するようにしてもよい。

【 0 0 3 6 】

また、上記説明では、紐状部材 3 として、ベルト 1 8 を代表的に説明しているが、これは例示であり、紐状部材 3 は、ベルト 1 8 のほか、例えば、紐、ロープがある。

【 0 0 3 7 】

さらに、上記説明では、バイク B を駐輪するのに、サイド式のスタンド S 1 を用いる場合を代表的に説明したが、これに限ることなく、例えばバイク B のエンジン部分の下部に図示しないスプリングばねの附勢力を受けながら前後方向 Y に起伏自在となる左右対向する支持バーを備えたセンター式のスタンド S 2 をスタンド S として使用した場合も、本考案の適用範囲である。

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 3 8 】

本考案は、バイクのハンドルに対する転倒防止装置の位置合わせが迅速かつ確実に行え、また、構造簡単にして製作および組み付けが容易であり、さらには部品点数が少なく、製作コストが安価になす用途・機能に適する。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 9 】

【 図 1 】 図 1 は本考案のバイク用立体駐車場の実施形態を示す斜視図である。

【 図 2 】 図 2 は同じく本実施形態を構成するバイク転倒防止装置を示す断面図である。

【 図 3 】 図 3 は同じくバイク転倒防止装置を示す正面図である。

【 図 4 】 図 4 は同じく図 3 の A - A 断面図である。

【 図 5 】 図 5 は同じく本実施形態を構成する係止具の拡大断面図である。

【 図 6 】 図 6 は本実施形態を構成するバイク転倒防止装置により、サイドスタンドを用いてバイクを係止した状態の説明的な平面図である。

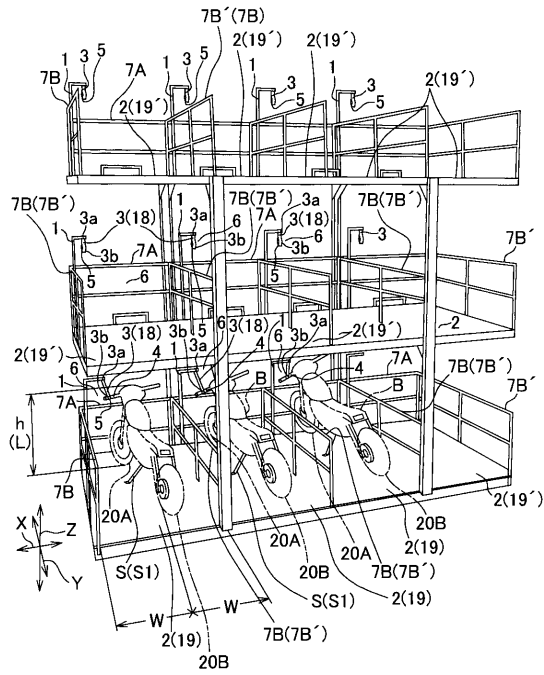
【 図 7 】 図 7 は本実施形態を構成するバイク転倒防止装置により、センタースタンドを用いてバイクを係止した状態の説明的な平面図である。

【 符号の説明 】

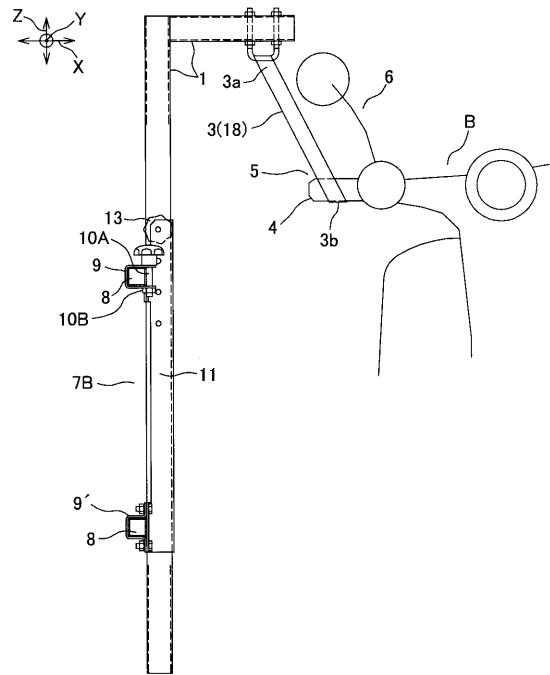
【 0 0 4 0 】

- | | | |
|-----|-----------|----|
| 1 | 支持棒 | |
| 2 | 床面 | |
| 3 | 紐状部材 | |
| 3 a | 一端 | |
| 3 b | 他端側の先端部 | |
| 4 | ハンドル | |
| 5 | 係止具 | 40 |
| 6 | バイク転倒防止装置 | |
| 7 A | 転倒防止柵 | |
| 7 B | 転倒防止柵 | |
| 7 B | 転倒防止柵 | |
| 1 8 | ベルト | |
| 1 9 | パレット | |
| B | バイク | |
| S | スタンド | |
| S 1 | サイドスタンド | |
| S 2 | センタースタンド | 50 |

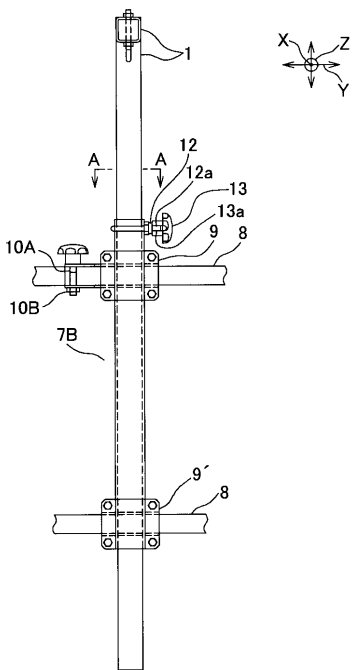
【 図 1 】



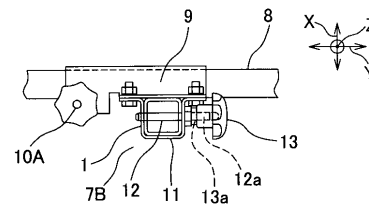
【 図 2 】



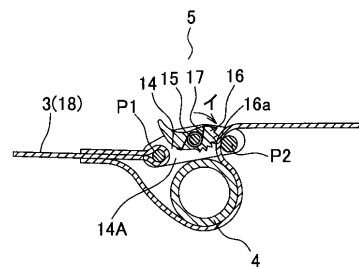
【 図 3 】



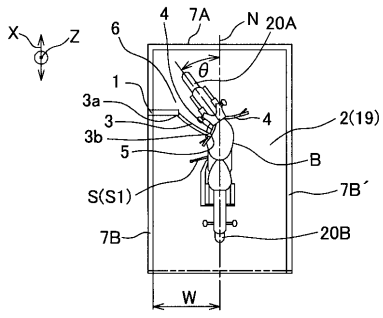
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】

